

蔵増優

私がアドバンスコースで1ヶ月間、神経内科を選択した1番の理由は、神経内科分野がとても苦手で、少しでも実習を通して理解を深めたいと思ったからです。神経内科は毎朝回診を行なった後に、全体でのカンファレンスがあり、先生方が患者さんについて議論されています。実習初日、さっそく私もカンファレンスに参加しましたが、知らない英語がたくさん飛び交い、全く理解することができませんでした。そこから1ヶ月間外来や病棟で、実際の患者さんを診察や検査を行ったり、先生方の講義を通して神経内科の疾患についての理解を深めていきました。そして最終週に行われた総回診前のカンファレンスでは、先生方が討論している内容について、しっかりと理解することができました。知識を深めることができたことは、アドバンスコースを通しての大きな収穫だと思います。

また私は、担当させていただいた筋萎縮性側索硬化症の患者さんから、病気以外の難しさを学ぶことができました。多くの方が知っての通り、ALSには治療法がありません。よって患者さんや御家族にどのように告知を行うか、またメンタル面やその後の生活をどのようにサポートしていくかを先生方が真剣に議論されていて、私が担当の医師だったらどうするかを考える機会になりました。当然答えはなく、患者さん1人1人にあった答えがあると思いますが、私も患者さんの背景や気持ちに沿った対応ができるような医師になりたいと思います。

この1ヶ月間で学んだことはたくさんありますが、それを活かしてまずは国家試験、そして初期研修に進んでいければと考えています。最後になりますが、1ヶ月間指導していただいた、安田恵先生はじめ神経内科の先生方に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

佐藤佑紀

約1ヶ月にわたる実習の中で感じたことについて2つ述べたいと思います。

1つ目は神経診察の奥深さについてです。比較的非侵襲的であり、簡便かつ特徴的なものがあれば一気にほぼ診断までできるというように神経内科における柱の一つであることが外来や回診に同行していると実感できました。また、興味を引いたのは、先生によって診察方法に少し個性があることでした。その時はそういったやり方もあるのかくらいの認識だったのですが、後に宇川先生からお話があり、本来あるべき正常な機能を試すという視点に立ち返ると、なぜそのようにテストするのかという意味を理解できるというアドバイスをいただきました。これまではなんとなく見ていただけでしたが、なるほど先生方の個性の由来を理解しました。生理学を少々疎かにしていましたが、これからはそういった視点も意識したいと思います。

もう一つは神経内科領域の奥深さです。実習前は神経内科領域の生理学的な複雑さに難しさを感じていました。少しはわかったような気にはなっていましたが、こうして振り返

ってみると、疾患・画像所見と一致しない症状や磁気刺激検査の機序などやはり謎だらけでした。ただ実習を通してそれはネガティブなものではなくポジティブなものに変わったような気がします。先生方からの講義がいくつかありましたが、複雑に思える機能も意外と単純な機能の組み合わせであったりと神経生理の面白さを感じられました。

最後に安田先生におきましては、神経診察の基礎から症例発表の準備、国試対策、さらには advanced OSCE 対策までしていただいて大変感謝しております。特に OSCE 対策につきましては、腰椎穿刺や医療面接の練習をさせていただいて、直前まで何もしていなかった私にとっては良い練習となりました。対策した内容は残念ながら 1 つも本番では出ませんでした。代わりに先生自体が患者役として登場したと聞いて少し面白かったです。ただ自分の担当ではなくて本当に良かったと思いました。

宇川先生はじめご指導してくださった先生方 4 週間本当にありがとうございました。

浪岡 靖弘

今まで、将来の進路を聞かれたときに、神経系に興味があるとなんとなく答えてはきていたものの、実際、診察が上手にできるわけでもなく、知識もあるわけでもなく、あまり自信がありませんでした。しかし、この 1 ヶ月の中で、様々な疾患について学び、診察をさせて頂き、各種検査を見学し、時には嵐のように激しい議論が飛び交うカンファで自分を見失ってしまうこともありましたが、実習前より自信を持って神経に興味があると言えるようになったのではないかと感じました。特に、神経伝導検査や針筋電図、磁気刺激検査については、以前は、難解なイメージがあり、避けてしまいがちでしたが、講義や見学中の説明、宇川先生編集の臨床神経生理検査入門を通して、徐々にわかってきたという実感があります。また、太田熱海病院では、門脇先生に本当に様々なことについて、質問しながら教えて頂きまして、大変勉強になりました。

先生方は皆さん優しく、気軽に様々なことを教えてくださり、とてもありがたかったです。この 1 ヶ月で学んだことを国試だけでなく、その後の臨床や、これからの自分の学習にも役立てていきたいと思えます。ありがとうございました。

李 ふみこ

一か月間、長いようでとても短く、日々充実した実習を大変ありがとうございました。先生方は、お忙しい中、どんなことに対しても熱心に教えてくださり、また、同級生の鋭い質問も多くあって、私にとっては、毎日が学びでありました。

神経内科は、興味はあるけれど複雑で難しく、以前から苦手意識をもっていました。けれど、朝の回診や外来で、先生方がどのような点に着目し、その上でどのような問診・一般的な診察・神経診察を行っているかを見学したり、様々な特徴をもつ患者さんの問診・診察をさせていただいたり、神経学的検査を実際に体験したり、症例検討会で先生方の討論を聞きながら、自分でもあれこれ考えたりしていく中で、この一か月間を経て、自身の

成長を少しでも感じる事ができたような気がします。同級生にも助けられながら、今まで点でしかなかった神経内科の知識が、線となって繋がりました。また、患者さんをまるごと診ることができるこの分野の奥深さに、さらなる魅力を感じました。神経内科を回る事ができて本当によかったなあと感じております。

特に、神経診察に関しては、日赤病院での実習を含め多くの患者さんに接することができ、ある程度基本的な神経所見は自信をもってとることができるようになったと感じています。また外来では、患者さんが呼ばれてから診察室に入ってくるまでの短い間で、歩き方や、手の振りなどの動作、表情など、「最初の印象」がどうであるか、病的なのか病的でないのか、

病的であるならば、どこがそう感じさせるのか、神経内科に限らず、常に念頭に置くことが大変重要であると学びました。

一か月間、多くのことを経験し、大変勉強になりました。この機会をくださった、先生方、多くの患者さんに、心から感謝しております。ここで学んだことを忘れず生かしながら、これからも頑張りたいです。本当にありがとうございました。

